

1997  
創刊号

大阪産業大学総合図書館報

# 図書館だより



## 目次

- 「図書館だより」創刊を祝し……………2
- 「図書館だより」創刊にあたり……………3
- 図書館での出会い……………4
- 図書館との付き合い……………5
- 総合図書館システムの紹介……………6~7
- 総合図書館インフォメーション……………8

平成10年

70

学園創立70周年

題字：企画開発室長 梅本白蓮

# 「図書館だより」の創刊に期待する



大阪産業大学 学長

天野 光 三

20世紀は明治33年からはじまりました。それからの100年間に科学技術と生活・経済が飛躍的に進歩し、地球環境さえ変調を来すに至りました。世界人類の歴史から見てもまさに波瀾万丈であったこの20世紀もあと2年で終わって、新しい21世紀に入ります。

21世紀にはわが国の高齢化・少子化の傾向が一段と強まり、インターネットや双方向テレビなど、高度情報化が進んで日常生活に普及するでしょう。18才人口の減少につれ、誰もが大学に進学できるという近い将来に備えて各大学は、新しい時代への対応に真剣に取り組んでいます。私学の図書館も、高度情報化の新しい時代に相応した変革を迫られています。

21世紀中期を待たず、大抵の原書はその場で日本語に翻訳できるようになると言われるくらいです。今からその時代への対応を心掛けねばなりません。一昔のように、ただ単に貴重書の所蔵や、蔵書数の多さだけを誇る図書館が時代遅れになってしまうことはおそらく間違いありません。とにかく20年・30年間に、いかなる目的にも一度も閲覧されることのない蔵書が何万冊も書棚に並べてあるという蔵書数の多さだけで、私学の図書館が評価される時代ではなくなると思います。

誤解を恐れず簡潔に、21世紀の私学の図書館の主な役割は次のように思います。

(1) 本学においても「OPACシステム」で瞬時に便利な検索ができますが、蔵書目録のデータベース化を推進し、さらには、探している内容が載っている図書について、学内はもちろん、学外の何処の図書館にどんな図書があるかに関する豊富な情報が

提供されてること。

(2) 学外の他の図書館の所蔵の内容にまで相互に容易にアクセスし、入手できる全国規模のマルチ・ネットワーク・システムに参加していること。

(3) 学生の教育・研究のために必要な参考書や関連文献を、教育効果を上げるために必要なだけ整えていること。

(4) 学生の自発的な読書・勉強のための良き環境を提供すること。

(5) 地域に開かれた大学として、社会人教育や生涯教育に貢献できること。

以上のように、これからのマルチメディアのハード・ソフトの急激な進歩につれて、大学図書館も大きい変革期にあり、利用者のニーズを満たすために、情報化手段を積極的に取り入れて行かなければなりません。

この期に当たり、「図書館だより」を刊行することは“利用者”からのニーズを知り、また“提供者”である図書館からの情報のアナウンスにも多いに意味があります。

“メディア”とは“仲立ち”のことだそうです。今回創刊される「図書館だより」を通じて、図書館と教員・学生が交流し、文献情報の新しい入手の方法と図書館のあり方についてともに考え、実践するための“メディア”となってほしいと思います。その結果、本学図書館が新時代に遅れず、むしろ先取りして、便利で有益・快適な図書館として、21世紀にも喜ばれるようになるために役立ってくれることを期待します。



# 「図書館だより」創刊号によせて



総合図書館長

河井徳治

この図書館が誕生した16年前には、その外観も設備も本当に誇らしく思えるほど立派なものであった。あとは学生諸君はもちろん、教職員もこぞって親しみ利用できる図書館になるようにサービスを心がけ、必要な蔵書を増やして整理をすすめて行けばよいだろうと思ったものである。それまでは6号館の4階フロアに図書館があったが、その当時一度図書館長を半年勤めたことがある私には、この館の誕生は感無量と言ってよかった。その後、工学部の学科増、大学院の誕生、経済学部の新設、経営学部の二学科制と、大学の規模が拡大した。臨時定員増の影響もあってのことだが、閲覧席を確保するために4階の書庫まで開放しても、試験期間などは、多くの利用者で溢れるほどになっている。また蔵書も30万冊に増加し、毎年8千冊は増え続けており、書庫増築等を含め、利用者のための図書館として今後も充実するよう努力していきたい。

この間に図書館そのものの在り方が、資料や資料の利用の仕方での電子化に伴って変貌を迫られているのである。例えば学研都市にある奈良先端科学技術大学院大学の図書館には、紙の資料は少なく、コンピューターの画面に出る資料なのだ。もちろん私たちの大学では、歴史的文献も貴重な研究資料であるから、全部をそうする訳にはゆかないが、いずれは図書館まで足を運ばなくても資料を提供できる時代がくるだろう。その時代の到来に備えて本学図書館も可能な電子化に遅れをとることはできないのである。

このような変革を迫る課題の中で図書館の在り方の変化と利用の仕方を伝える「図書館だより」は、

今後欠かせぬ情報源となるもので、まさに時宜に合った企画と思う。

いずれにせよ、大学図書館は大学の顔である。外来の訪問者は真っ先に図書館を訪れる。先生方はどのような資料に支えられて研究しているのか、学生の図書館の利用の仕方はどうか、図書館での過ごし方はどうか、はたまた職員の対応やサービスはどうか、図書館設備の機能は有効かなどを知ること、その大学の実情を推測できるからである。とりわけ本学の場合、学生、教職員にとって大学周辺、並びに通学路に快適なアメニティー空間が得がたいという事情もあるから、設備と機能の両面で図書館の果たす役割は、特に重要性を増すことになる。学生、教職員がゆったりと落ち着いて過ごせる知的アメニティー空間を目指して、誇りうる図書館づくりでありたいものである。

(教養部教授)





# 図書館での出会い

大学図書館は大学のシンボリック的存在である。大学の英知のシンボルである。しかし、最近、このような見方は古くなってきたように思える。たとえば適当でないかもしれないが、鉄道の駅といえば、それは乗客の乗り降りあるいは貨物の積降ろしを主な機能とする施設と考えられている。この見方は今も決して変わりはないが、近頃は駅そのものの機能が多様化し、様々な機能が付与され、いわゆる集客施設のひとつとして考えられるようになってきている。そのため、駅舎そのものにも多彩な工夫が凝らされ、駅舎そのものが観光スポットになっているところさえある。このように、時代とともに施設は本来持っている機能のほかに、多様な機能が付与され、人が集い、人の様々な営みを満たす場所となっている。大学図書館も時を経るにつれ、その機能にも変化が見られる。コンピューター技術の進展に伴い、コンピューターを利用した文献検索が容易になり、さらに様々な映像メディアを使って好みの映画を鑑賞したり、臨場感あふれる良質の音楽を楽しむことができるようになってきている。しかし、このような現代的な図書館の活用のほかに、図書館での別の楽しみ方を勧めたい。それは日々図書館を利用するときに経験することであるが、人と人との出会いである。図書館は見知らぬもの同士が席を並べ、レポートの作成の準備をしたり、ゼミの報告資料の整理をしたり、次の時間の授業準備をしたり、あるいは気ままに読書をしたり、人それぞれである。こうした雰囲気の中

中で、いつも決まった時間に、決まった席にいつもの人が座っているものである。こうした人と知り合いになり、共通の話題を共有できるようになれば、大学生活もひとつ華やいだものになるだろう。たとえば読書家でなくても、図書館は君達にささやかな楽しみを与えてくれる場になろう。まずは、肩肘はらず図書館通いをはじめ、やがて君達には、いわゆる図書館散歩を勧めたい。自分自身をふりかえると、決して勧められたことではないが、図書館を有効に利用したという思い出はない。しかし、大学院に進み、学問を職業として意識するようになり、やむをえず研究のために必要な文献、資料を検索するために頻りに図書館を利用するようになった。やがて、休み時間を利用して、あてもなく図書館に配架されている図書や雑誌を眺めて歩き、タイトルを見て気になるもの、あるいは革張りの立派な装丁の本を手に取り、ページを繰り、またそれを棚に戻し、再びあてもなく書架と書架の間を散歩する。このようにして時間をつぶすのも悪くない。時には、思わぬ発見をすることもある。また、思わぬ書物との出会いが君の人生観を変えるかもしれない。図書館での楽しみ方は人それぞれである。自分なりの図書館での楽しみ方を発見してはどうだろう。君の人生を変える出会いがあるかも。

(経営学部教授)

## イギリス産業革命史コレクション (501点)について

経済学部教授 鎌田 武治

本学図書館に所蔵されている稀覯書やコレクションは、近年斯界の評価を高めつつあると自負できる。なかでも標記コレクションは、イギリス産業革命の諸問題を労資関係、産業社会経済史、技術史および法制史などの諸側面から、つまり、文明社会史的に照射した多くの主要な文献資料から構成されている点で注目されている。

たとえば、アークライト自身によって起こされた特許侵害に関する訴訟記録(1785年)、1853年8月から10ヶ月にわたるプレストンの工場におけるストライキ関連のパンフレット、ピラの収集、あるいは1802年工場法成立以降の労働条件改善のための議会諸法令と実施について、1835年からの工場監督官の報告セットなどの基礎資料ばかりでなく、機械導入が労働者階級に与える肯定的・否定的影響を論じた、リカードの『経済原理第3版』、ロバート・オウエンの『ラナーク州への報告』(初版)、『新社会観』(第2版)、さらにバベッジ『機械と製造業の経済学』(初版)、ハリエット・マーチノ『工場論争』



私が研究してきた主たる対象は、「イギリス19世紀の労働・社会問題とその対策」についてなので、その文献資料はイギリスに存在するものが多く、当初、日本には主要な文献・資料のみが少しづつ各大学などに分散して所蔵されていたに過ぎなかった。最初の頃は、それらの所在を探りながらマイクロフィルムで取り寄せることで、多くの時間と費用を費やさざるを得なかった。最近では、コピーの機械も情報・通信網も発達し、海外にも自由に、かつ比較的安く行けるようになったのと、なによりも復刻版の刊行が盛んになったのは大助かりである。しかし、他方で従来目に触れることのなかった資料が掘り起こされたりして、やはり直接海外に行き手に触れ、目で確かめることを要求されるものも逆に増えてきたとも言える。

これらの資料は、多くは大英図書館や主要な大学図書館の古文書室、ロンドンをはじめ各地の公文書館などに保存されている。これらの利用のためのアクセスも、時代の流れと共に大変進歩してきたというのが実感である。だいぶ以前になるが大英図書館やパブリック・レコード・オフィス（Public Record Office=PRO）などは閲覧券を手に入れるためには住所を確定して、そこに郵送される方式をとっていたが、現在は外国人でもパス・ポートを提示すれば、即座に閲覧券を発行されたり、入館を許可され、利用できるのが随分と便利になった。

大英図書館やその付属の新聞図書館あるいはロン

ドン大学のセネット・ハウスにあるゴールドスミス・ライブラリでは、まず閲覧室にはいったら自分の座席を定め、その座席番号を図書請求書に書き入れてカウンターに提出すれば、その机まで請求した新聞・書籍を運んでくれる。ただし、その間だいぶ待たねばならないのが難点である。新聞には最近ではマイクロ化され、マイクロ・リーダー室で読むものもある。PROではもっとコンピューター化が進み、カウンターでブリーパー（bleeper）を受け取り、その番号が座席番号であり、それをもとにしてコンピューターを通じて目的の文書を請求する。文書が用意されるとピーラーが鳴り、カウンターで受け取って所定の席で閲覧する手順になる。

コピーは専門の係により、手続きをすれば、翌日渡しか、一週間ほどで郵送される。だから複写箇所さえはっきりしていれば、手紙で依頼することも可能であろうが、手書きの文書（manuscripts）や新聞記事は複写箇所を正確に指定するのが難しい。しかも書籍にもまして、手書きの書類や新聞の実物に接すると、複写では得られない、その時代その人物の息吹とは行かないまでも、香気がそこはかたく伝わってくる体感に浸り、その醍醐味を味わうことが出来る、という長所がある。私はそれを求めて今年もイギリスの図書館・公文書館巡りを繰り返しているのかも知れない。

（経済学部教授）

（初版）、シーニア「賃金論三講」（第2版）、ユーア「製造業の哲学」（初版）やナイト「機械の成果」（第2版）など著名な著書、また、産業・社会史の分野ではガスケル「イギリスの労働者」（1883年初版）をはじめ、カートライト、クロムプトン、ワットなど発明家の伝記も含まれている。

第三次産業革命期といわれる今日の世界が直面している、政治・経済・社会的、また産業技術的諸問題の所在と的確な対策を究める上でも、このコレクションには貴重な示唆を与えてくれるものが少なくないであろう。



# 図書館の役割について

図書館は教育研究上必要な資料を系統的に備え、利用者の皆様が資料の有効活用が出来ることを目的としております。

図書館における資料には図書資料（紙媒体）と視聴覚資料および最近では電子資料等がありますが、大学図書館において利用者の求める資料の量・質の

向上を図るため電子図書館への推進を含め、情報化社会の急速な変化の中、益々学術情報の情報提供の基盤としての役割が求められております。

本学図書館において図書館機能の充実を図り、教育研究のために図書館が皆様のサポートをします。

## 総合図書館システムの紹介

総合図書館では利用者のサービス向上と業務の効率化を図る為、新しく図書館総合システムを平成7年より導入しました。

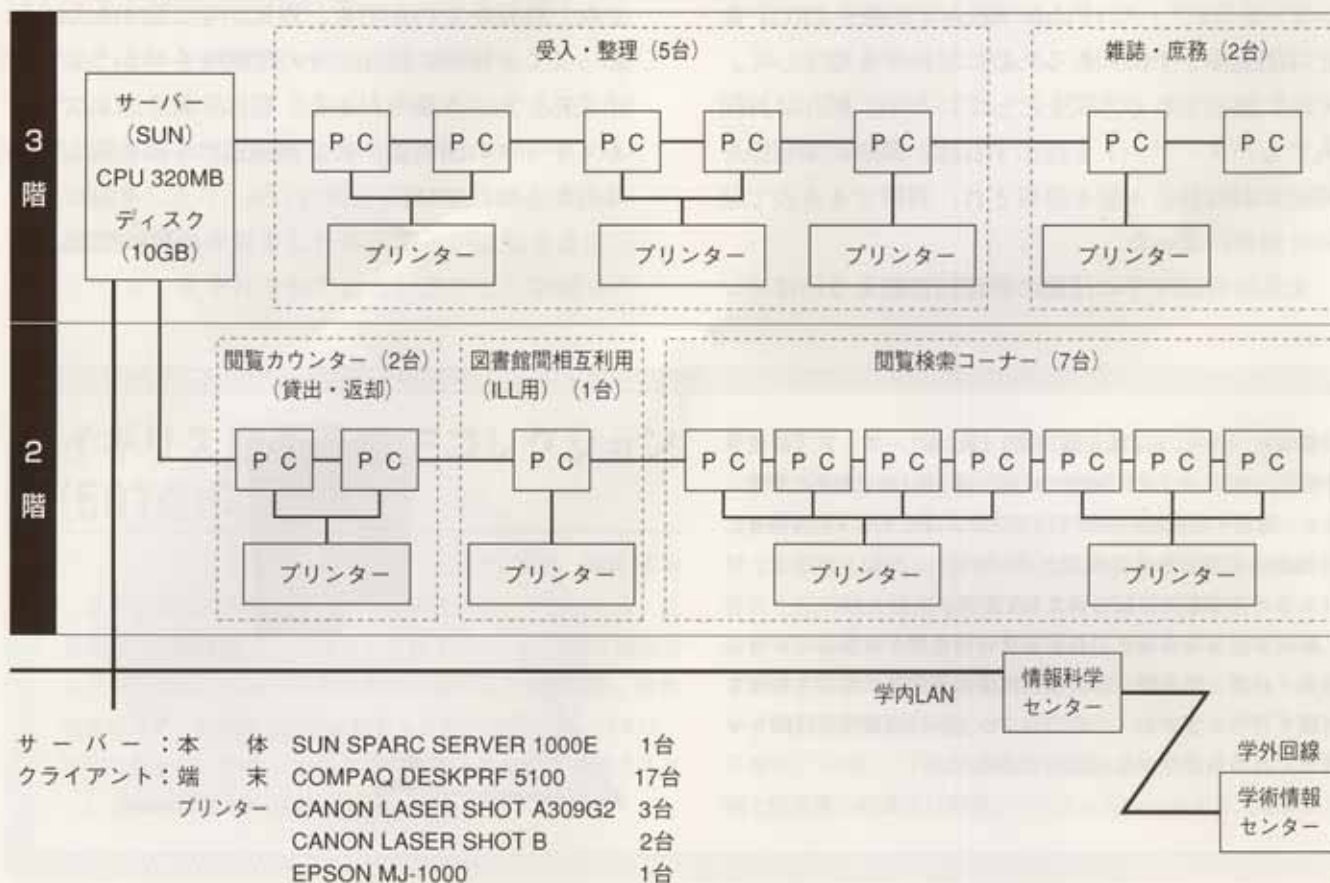
このシステムは図書雑誌の貸出・返却をはじめ受入から支払いまでの総合的な管理が行えます。

◆総合図書館システムには次の様な機能があります。

1. 所蔵検索 (OPAC:Online Public Access Catalog)
2. 閲覧業務 (図書の貸出・返却)
3. 収書業務 (図書・雑誌の発注から整理)
4. 製本業務 (雑誌の製本)
5. 予算業務 (図書・雑誌の発注から支払いまでの予算管理)
6. 管理業務 (蔵書点検・各種資料作成)

このシステムを稼働している設備は下記の図に表示しています。

■総合図書館システム構成図





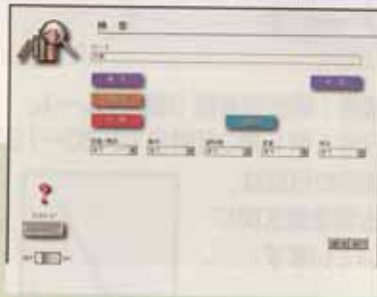
産業大学には約30万冊の蔵書があり、  
現在その約70%の情報をコンピュータで検索できます。

## 所蔵検索(OPAC)の使い方

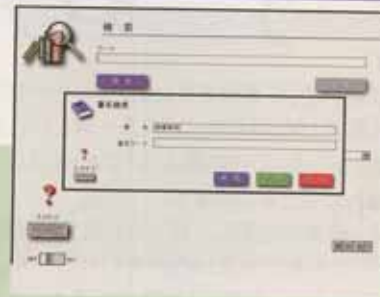
所蔵検索(OPAC)は、2階メインカウンター横に設置されています。検索方法には次の4種類あり、それぞれの検索項目入力後、「検索ボタン」を指定すると結果が表示されます。

- ワード検索…書名、著者名、出版社等のことばをキーにして行う検索。
  - 書名検索…書名の前方一致による検索と書名のワードによる検索が行えます。
  - 著者名検索…著者の前方一致による検索。
  - 分類検索…分類別に表示されている画面より項目を選択しながら検索を行う。
- 以上の検索以外に資料種別や出版年を併せて検索することができます。

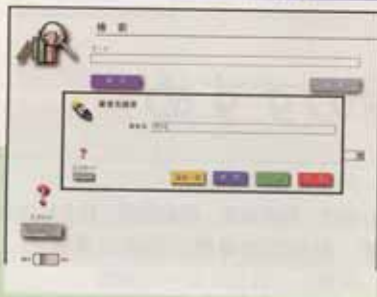
ワード検索 画面例



書名検索 画面例



著者名検索 画面例



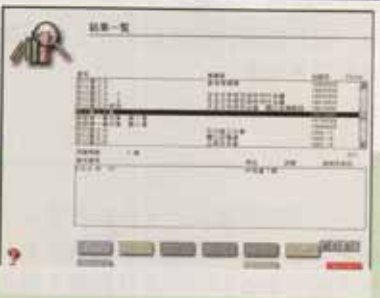
分類検索 画面例



検索結果の表示 画面例



結果一覧の表示 画面例



上の画面に下部の結果一覧のボタンをクリックするとヒットした図書の書名、著者名、出版年の内容が表示されます。

目的とする図書のエリアをクリックすると「請求記号」「所在」「貸出状態」の情報を得ることができます。また、これを印刷することができます。

※詳しい使い方は、操作マニュアル又は、図書館職員にお申し出ください。

# 総合図書館インフォメーション

**1.開館時間** ●図書館は平日9時～20時30分、土曜日は9時～19時20分の間開館しています。(但し、貸出、返却、レファレンスは平日9時30～20時、土曜日は9時30分～19時)

●都合により変更することがあります。

**2.休館日** ●日曜日・国民の祝日、本学創立記念日11月1日)

●館内整理日(毎月の25日、当日が休日の場合は翌日)

●臨時の休館日は、その都度掲示します。

## 3.貸出冊数と期間

種別	冊数	期間
学生	5	2週間
大学院学生	30	5カ月
本学職員	90	1カ年

<注意>借りた本は、期日までに返却してください。次に借りたい人のためにも迷惑がかかりますので注意してください。返却期間を過ぎた場合、延滞日数の倍日数だけ貸出を停止します。

## ライブラリー・コンサート

図書資料として蓄積されたCD・レコードなどの有効利用と視聴覚教育の充実及び利用者サービスの一環として、世界一級のオーディオ装置を設置しました。この装置は、いながらにしてコンサートホールの臨場感を味わうことができます。

勉強・仕事の合間に、ゆったり気分で読書し、クラシックを聴いて、ホッとしてみるのもよいのかもしれない。

クラシックは、直感力・創造力を豊かにする力を持っていることは脳波研究で証明されています。脳の活性化のためにもおすすめします。

- 場所：総合図書館 3階AVルーム
- 日時：第1、第3月曜日12:20～13:00
- 曲目の日程は、総合図書館玄関に置いています。



## 図書館新聞コーナー利用のすすめ

総合図書館に新聞コーナーがあるのをご存知ですか、一般紙、外国紙、専門紙、スポーツ紙など多くの当日分の新聞をおいています。新聞には、色々な読み方、見方があります。1つの記事について、読み比べたり、批判の目で物事を考えるのも面白く楽しいと思います。また、過去1年分は保存していますので、見たい場合は、カウンターへ申し込んでください。

なお、朝日新聞、日経新聞などの記事をCD-ROMで検索もできます。

### 1階新聞コーナー(国内紙)

朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、産経新聞、日本経済新聞、日経産業新聞、日刊工業新聞、日本工業新聞、The Japan Times(英語)、日刊スポーツ新聞

### 2階新聞コーナー(外国紙)

ザ・タイムズ、ニューヨークタイムズ、ブラウダ、光明日報、ルモンド、VDI、モータートランスポート、カゼット、朝鮮日報、ディーツァイト、オヴニー、朝鮮時報、人民日報、日刊自動車新聞、フランクフルター アルゲマイネ

## 編集後記

イギリスの随筆家スティルの言葉に「からだにとって運動が大切であるように、精神にとっては本を読むことが大切である」——人は健康を維持するために適度の運動をしなければならない。それと同じように人間は、人間らしさを維持するために常に適度な読書が

必要である。読書をしない人間は自ら人間の資格を放棄しているものと考えられる。

今年も、あますところ1ヶ月半、私の机の上には多くの本が積まれているが……。スティルの言葉はそれよりもっと重い。

図書館だより No.1

発行日平成9年11月17日

編集発行 大阪産業大学総合図書館

大阪府大東市中垣内3丁目1-1

Tel.0720(75)3001(代) Fax.0720(73)1664